



「人々の健康生活」の実現をめざします



vol. **32**
2021.7

中支部だより

広島県看護協会中支部会員数

保健師	50人 (入会率29%)
助産師	128人 (入会率110%)
看護師	2,946人 (入会率69%)
准看護師	54人 (入会率 8%)

合計 3,178人 (入会率61%)

中支部長
ごあいさつ

今、私たちにできること

～看護の力を集結して、元気な社会と
看護職を応援する中支部の活動を目指して～

広島中支部長 江原 真由美



平素より広島県看護協会広島中支部の皆様におかれましては、格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

この度、広島中支部長を拝命致しました、江原 真由美でございます。今年度は支部長を含めて4名の役員が交代し、新体制となりました。会員の皆様を支えられ、役員一同これまで以上に中支部の活動推進のお役に立てるよう尽力する所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。中支部においても思うような活動ができず、総会の書面開催、研修会を急遽中止するなど皆様にはご不便をおかけ致しましたとともに、ご協力頂き心より感謝申し上げます。

収束に向けて先の見えない中、新しい研修方法への取り組みや、地域活動へも工夫して参画していかなければなりません。今年度は、規模を縮小してのまちの保健室の実施、各支部単位での進路相談会開催など新しい試みを行うこととなりました。今回の医療現場における新しい生活様式の推奨を好機と捉え、より良い環境を整えて行けたらと考えております。

また、中支部のネットワークをより強固にするため、研修事業に関しても社会情勢を鑑み進めて参ります。



令和3年度 役員全員集合

このような状況下で、看護職の役割と期待は益々大きくなる一方、医療現場の緊張は高まり、厳しい現実を目の当たりにして苦しみ、悩んでいる方もいらっしゃるかと思います。個人の力だけでは解決できない様々な課題を組織の力で解決し、私たち看護職が生涯を通し、安心して活き活きと働き続けられるような活動を行って参ります。

看護専門職としての使命と誇りを持って看護の底力を集結し、今回の新型コロナウイルスだけではなく、多様な社会変化に柔軟に対応しながら、事業を展開して行きたいと思っております。

まだまだ予断の許さない状況が続いておりますが、会員の皆様からの忌憚のないご意見やご提案を伺いながら、事業推進に務める所存でございます。

今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

★ 新役員紹介 ★



副支部長
酒井 美明

中支部会員の皆さまのお役に立てるように微力ながら頑張ります。



幹事
樽本久美子

微力ながらお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願致します。



幹事
古田美穂子

初めての役員で、分からないことが多いですが、頑張ります。よろしくお願いいたします。

▶ 令和3年度 中支部総会

4月17日 中支部総会を開催しました。コロナ禍で規模を縮小して開催しました。



令和2年度 事業報告

REPORT 01

社会経済福祉研修会 「イライラ感情に振り回されないテクニック」～アンガーマネジメント～

講師 キャリアフォーカス代表 棚多 里美先生

日時／令和2年10月17日(土)
10:00～12:00
場所／広島市立広島市民病院
参加者／80名

日々忙しいと、小さなことにイライラします。イライラ(怒り)の感情は、自分が生み出している事を研修で学びました。怒りは、自分の中にある理想と現実の間に生まれるギャップだそうです。怒りを感じると、すぐ感情的に話してしまいがちですが、6秒待つことで理性的に話が出来るようになるそうです。日常的に役立つ研修を企画していただきまして、ありがとうございました。

中電病院 岩佐 和代

私は多忙になるとイライラとしてしまう傾向があり、自己の行動を変えたいと思い、研修に参加した。怒りのメカニズムや、思考のコントロール方法など学ぶことで、自己の感情に対して客観性のある視点を持つ重要性を痛感した。すぐに実践できるスキルを学べたため活用していきたい。

広島市立広島市民病院 柳 絢子



REPORT 02

組織強化研修会

「良好な組織作りのためのメンタルヘルス」

講師 広島市立広島市民病院 精神科認定看護師 城崎 裕美先生

日時／令和2年11月21日(土)
10:00～12:00
場所／広島市立広島市民病院
参加者／53名

受講を終えて、ほどよくストレスを感じながら自分の傾向を知ることが大切だと学びました。いろいろな感覚に気づくためにも、五感を使って感情に向き合い、心の余裕を持つことができるようにしたいです。

たかの橋訪問看護ステーション 荒谷 真由美

メンタルヘルス研修会でストレスの自覚、不調のサイン、心のお手入れ等について学んだ。各自の心に余裕があると他者に寛容となり良好な組織づくりとなる。長期化するコロナ禍での不安、ストレスを組織で緩和し乗り越えていきたい。

広島市立舟入市民病院 古川 麻木子



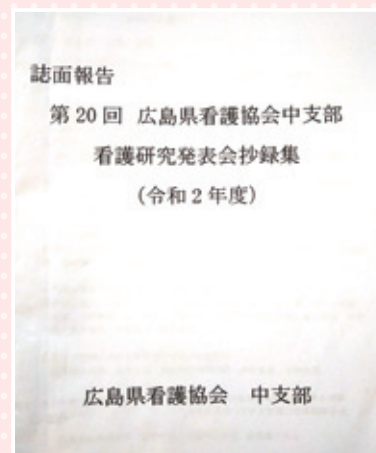
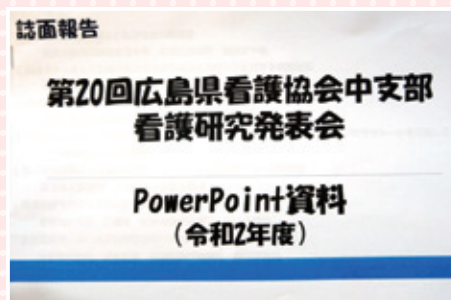
REPORT 03

看護研究発表会

研究サポート・講評 広島文化学園大学 教授 佐藤 敦子先生

日時／令和3年3月
場所／発表演題7題 誌面報告

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を遵守するために、会場での発表から急遽、誌面報告に変更しました。逼迫した医療状況下で、看護研究に精力的に取り組むことを通して、専門的知識・技術の創造と開発に努めました。



令和3年 事業計画

令和3年9月4日(土)	救急蘇生研修会
令和3年10月16日(土)	社会経済福祉研修会(腰痛予防)
令和3年11月20日(土)	組織強化研修会(災害看護 ~心のケア~)
令和3年12月11日(土)	関連職種地域連携研修会(多職種で考える認知症ケアについて)
令和4年2月19日(土)	看護研究発表会

輝きびと
見~つけた

日本赤十字社 国際救援開発要員の 一員として活動しています

広島赤十字・原爆病院 日本赤十字社 国際救援開発要員 看護師 日隈 妙子



日赤に入職し5年目に「国際救援開発要員のための集中英語研修募集」を目にしました。

中学の頃から海外に興味があり、高校ではアメリカにホームステイ、大学では国際経済を学びました。企業を退職し、医療の世界に飛び込んだのが25歳。それから看護師を目指し、30歳で日赤へ入職しました。入職時「貴女は国際救援にも興味がありますか」と当時の院長に質問されました。英語を活かして医療活動が行えるなんて夢のまた夢だと当時は思っていました。届かぬ夢ではないと思えた瞬間でした。しかし、看護師としての実力がなければ何も出来ません。看護師として一人前になる、そう思いながら日々必死で働いていました。そんな中、目にしたのは、先の案内でした。

36歳の時、東日本大震災の救護班要員として派遣され、水素爆発が起きた瞬間、福島で活動していました。その後、石巻へ移動しましたが、言葉に出来ない無力感に襲われ、災害の恐ろしさを目の当たりにした経験でした。

同年、先の英語研修に参加させて頂き、目標スコアをクリアし、必須の研修を終え、要員に登録されました。要員研修では赤十字や災害支援の基礎だけでなく人道支援に必要な事柄を学びます。要員としてスタートに立てた時、37歳でした。

38歳でイラクへの派遣が決まりました。毎日銃創や爆撃による患者が搬送されてきます。日本がいかに平和か身を以て実感させられました。平和のありがたみを決して忘れてはいけません。平和を維持できている日本だから出来る事がある。私

たち、一人一人がSDGsに参画する今、少しでも豊かに、そして平和な世界へと近づけるよう世界中の人々の力を合わせる必要があります。

2020年はレバノンへ派遣予定でしたが、世界のコロナ禍を鑑み、一旦中止となりました。しかし、こんな世界だからこそ必要とされる時もあります。日々の看護実践を糧とし、いつでも派遣要請があっても、すぐ対応出来るよう常に準備しています。



編集後記

未曾有のコロナ禍、私たちの生活や暮らしを大きく変えました。苦しみや不安で心が折れそうになった時、何気ない日常の大切さに気づきながら、新型コロナウイルス感染症と対峙した1年でした。みなさま如何お過ごしでしょうか。一日も早くマスクを外し、会員のみなさまと笑顔でお会いしたいです。

相原 忍

[発行日] 令和3年7月1日発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島中支部事務所
〒730-0051 広島市中区大手町4-6-11 ミーニューカーザ310号
TEL/FAX 082-248-2500
E-mail: s-naka@nurse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 江原 真由美